

- フォードモーターカンパニー、「マスタング」のドアラッチに不具合があるとしてリコール 14年10月3日～15年4月24日に生産した346台  
左右ドアラッチ内部のスプリングフック取付部の強度が不足している為、ドアの開閉を繰り返すとラッチが破損することがある。その為、ドアラッチが確実にロックされず、最悪の場合、走行中にドアが開く恐れがある。
- トヨタ自動車、「プリウス」「プリウスPHV」「C-HR」のエンジンワイヤハーネスに不具合があるとしてリコール 15年10月26日～18年5月16日に生産した55万3870台  
エンジンルーム内のワイヤハーネスが保護カバーのない箇所周辺部品と干渉しているものがある。その為、走行時の振動により配線の被覆が損傷して、配線同士がショート、発熱し、焼損することがあり、最悪の場合、車両火災に至る恐れがある。
- トヨタ自動車、レクサス「LC500h」のハイブリッドシステムコンピュータに不具合があるとしてリコール 16年12月14日～18年7月31日に生産した1434台  
ハイブリッドシステムコンピュータの制御ソフトが不適切な為、高速走行中にアクセルペダルを大きく踏み込むと、コンピュータが規定時間内に変速処理を終了できないことがある。そのためコンピュータが異常と判定し、警告灯が点灯するとともにハイブリッドシステムが停止し、走行不能となる恐れがある。
- アウディジャパン、「Q3」のエンジン燃料供給制御プログラムにおいて仕様地設定が不適切だとしてリコール 16年9月3日～17年11月20日に輸入した355台  
エンジンの燃料供給制御プログラムにおいて、仕様地設定が不適切な為、誤った仕様地プログラムが設定されており、NOxの排出量が基準値を満たさない恐れがある。
- アウディジャパン、「A6」等計14車種のスピードメータに不具合があるとしてリコール 16年7月16日～17年1月17日に輸入した947台  
メーターパネルユニットの制御プログラムが不適切な為、ナビゲーションユニットとの通信不良が起るものがある。その為、メーターパネルが表示しなくなり、速度計の表示が消える恐れがある。
- 日産自動車、「NV350キャラバン」等計16車種のイグニッションスイッチに不具合があるとしてリコール 16年12月22日～18年2月15日に生産した3万8533台。又、交換修理用部品として出荷したが、組付けられた車両が特定できない2098個も対象。  
イグニッションスイッチのポジション保持用スプリングにおいて、成形設備のメンテナンスが不適切な為、成形時に傷がついたものがある。その為、イグニッションキー操作の繰り返しによってスプリングが破損し、イグニッションキーに多数のキーホルダー等の重量物を装着していると、走行中の振動等によりイグニッションキーがON位置以外に回転し、車両電源が断たれてエンジンが停止する恐れがある。なお、この状態で事故を起こした場合、エアバッグが展開しない。
- ホンダオブアメリカ、「NSX」のハイマウントストップランプ及び燃料タンクに不具合があるとしてリコール 16年8月8日～18年6月11日に生産した362台  
ハイマウントストップランプについては、内部基板のプリント配線の位置設定が不適切な為、走行中の振動により基板を固定するねじとプリント配線が干渉するものがある。その為、ブレーキ操作を行うと電源回路がショート。ハイマウントストップランプだけでなく、メータ内警告灯、マルチインフォメーションディスプレイの警告表示、ブレーキランプが不灯となる他、エンジン始動ができなくなる恐れがある。燃料タンクについては、溶着設備の条件設定が不適切な為、左右燃料タンクを連結するクロスオーバーインレットの接合面が部分的に溶け込み不足となっているものがある。その為、走行中の振動等により接合面が剥離し、燃料が漏れる恐れがある。
- スバル、「レガシィ」の電動パーキングブレーキに不具合があるとしてリコール 09年4月20日～14年9月5日に生産した12万6230台  
電動パーキングブレーキのコントロールユニットにおいて、部品製造時の基板取扱いや、センサ部品の構造及び製造時の管理が不適切な為、強度不足のものがある。その為、使用過程で素子やセンサ部品が破損し、警告灯を点灯させ電動パーキングブレーキが作動しなかったり、低速走行時に瞬間的なパーキングブレーキ作動が起きる恐れがある。
- 三菱自動車、「アウトランダーPHEV」「アウトランダー」「エクリプスクロス」「RVR」のブレーキ hidroリックユニットに不具合があるとしてリコール 17年2月7日～18年4月11日に生産した1万8309台  
ECUの制御プログラムが不適切な為、hidroリックユニットのポンプモーターの制御切り替え時に電氣的ノイズが発生し、ECUの制御が中断されることがある。その為、横滑り防止システム(ASC)やABSの機能が一時中断し、その間の車両安定性が損なわれる恐れがある。又、オートクルーズコントロール「ACC」、衝突被害軽減ブレーキシステム「FCM」、停車後ブレーキペダルを離してもブレーキ力を保持して車両停止状態を保つ「BAH」、坂道発進の際に車両のずり下がりを抑制する「HSA」、車両運動統合制御システム「S-AWC」の機能が付いた車は、作動中に機能が停止する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ、「V220d」のSRSコントロールユニット及び排気ガスの差圧センサに不具合があるとしてリコール 15年5月23日～18年4月20日に輸入した5958台  
SRSコントロールユニットについては、プログラムが不適切な為、助手席エアバッグオフのインジケータが点灯しないことがある。その為、助手席側エアバッグが作動しない条件化で、乗員が助手席エアバッグの非作動状態を認識できず、最悪の場合、衝突時にエアバッグが作動しないことがある。又、排気ガスの差圧センサについては、製作時のセンサ出力の公差設定が不適切な為、使用過程においてエンジンコントロールユニットが故障を検出するものがある。その為、エンジン警告灯(MIL)が点灯し、排気ガス除化装置(DPF)及び、排気ガス再循環装置(EGR)が停止して、保安基準第31条の基準に適合しなくなる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ、「メルセデスAMG C43 4MATIC」等計2車種の始動電流リミッタに不具合があるとしてリコール 15年8月20日～17年3月8日に輸入した1197台  
始動装置の使用法に対する評価が不十分な為、エンジン、スタータの内部部品が故障により固着して、スタータモータが回転できない状態で始動操作を繰り返すとスタータの電気回路に過電流が流れ、始動電流リミッタが発熱することがある。その為、始動電流リミッタの周辺部位が溶損、発煙し、最悪の場合、発火する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ、「C180カプリオレ」等計5車種のベルトライントリムに不具合があるとしてリコール 16年3月22日～17年10月31日に輸入した1372台  
車両側面後方の左右ベルトライントリムに、接着が不十分なものがある。その為、走行中の風圧等によってベルトライントリムが脱落する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ、「S400」等計7車種のプレフューズボックスに不具合があるとしてリコール 17年10月25日～18年2月26日に輸入した461台  
車両電源を管理するプレフューズボックスのナット取付け装置のプログラムが不適切な為、通電用金属プレートの固定ナットが組付けられていないものがある。その為、走行中の振動等により導通不良が発生し、エンスト等が発生して、最悪の場合、増加した電気接触抵抗により発熱し、火災に至る恐れがある。
- メルセデス・ベンツ、メルセデスAMG「GLE63S」等計4車種の油圧スタビライザ制御装置に不具合があるとしてリコール 12年1月7日～17年7月21日に輸入した833台  
油圧スタビライザ制御装置のオイルリザーバにおいて、シーリングキャップの消泡機構が不適切な為、姿勢変化が大きい運転を継続すると、ベントホールからオイルが噴き出すことがある。その為、噴き出したオイルが排気管等に接触、発煙して、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- 東プレ、いすゞ・エルフ等計14車種の冷蔵冷凍車の荷箱固定ブラケットなどに不具合があるとしてリコール 16年2月2日～18年5月15日に生産した1万9584台  
対象車はいすゞ「ギガ」「フォワード」「エルフ」、日野「デュトロ」「レンジャー」「プロフィア」、トヨタ「ダイナ」「トヨエース」、三菱ふそう「スーパーグレート」「ファイター」「キャンター」、マツダ「タイタン」、日産「アトラス」、UDトラックス「クオン」「コンドル」「アトラス」  
冷蔵冷凍車の荷箱及びサブフレーム固定ブラケット締結ボルトにて、締結用工具の管理が不適切な為、締結トルクが不足しているものがある。その為、走行中の振動等によりボルトが緩み、最悪の場合、各ブラケットが脱落する恐れがある。
- トヨタ自動車、「ハイエース」「レジアスエース」「ダイナ」「トヨエース」のディーゼル車の排気ガス再循環装置に不具合があるとしてリコール 10年7月22日～13年1月22日に生産した6万4656台  
排気ガス再循環装置のEGRクーラ(再循環ガス冷却部)にて、バイパスパイプの強度が不足している為、冷熱の繰返しでパイプ接続部に亀裂が生じることがある。その為、そのまま使用を続けると、排出ガスが基準値を満足しなくなる恐れがある。
- ホンダ、「フリード」「フリードスパイク」「フィットシャトル」「インサイト」等計6車種のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール 14年1月6日～15年3月30日に生産した8万6567台  
助手席用エアバッグのインフレーター(膨張装置)において、環境温度および湿度変化の繰り返しによりガス発生剤が劣化することがある。その為、エアバッグ展開時にインフレーター内圧が異常上昇して、インフレーター容器が破損する恐れがある。
- フォルクスワーゲングループジャパン、ベントレー「ベントイグW12」「ベントイグV8」のエアバッグ警告ラベルが不適切だとしてリコール 15年12月21日～18年5月17日に生産した357台  
助手席サンバイザーに表示するエアバッグ警告ラベルの貼り付け作業指示が不適切な為、旧基準のラベルが貼り付けられているものがある他、取扱説明書も同様にエアバッグ警告が旧基準の記載になっている。その為、保安基準第18条および第22条の3の基準に適合しない。